令和４年度　第53回千葉県中学校新人バスケットボール大会　総評

第53回千葉県中学校バスケットボール新人体育大会は、11月６日（日）、11月12日（土）、13日（日）の３日間の日程で、千葉県立館山運動公園体育館をメイン会場として行われた。今大会は第52回大会が新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて中止となったため、２年ぶりの開催となった。

男子のベスト４には、船橋市立海神中学校（船橋）、市原市立ちはら台南中学校（市原）、そして、ノーシードから勝ち上がった成田市立成田中学校（印旛）、市原市立五井中学校（市原）が名を連ねた。準決勝Ａコートの海神ＶＳちはら台南は、終始リードを守った海神が決勝進出。Ｂコートの成田ＶＳ五井は、成田が粘りを見せるが、五井が制し決勝進出となった。

男子決勝戦、両チームともハーフコートマンツーマンからスタート。１Ｑ、海神＃４の駒木の３ポイントで先制すると五井は１on１をしかけながら、＃９ガルシアのポストプレイで得点をしていく。海神は＃４駒木のアウトサイドシュートを中心に攻めながら、＃８加藤の連続得点で得点を重ねていく。後半、海神は、オフェンスリバウンドからのゴール下などで得点を重ねる。対する五井も＃９ガルシアのポストプレイだけでなく、スクリーンプレイやサイドからのセットプレーを使い、得点していく。残り３分、五井は＃７小原の精度の高いジャンプシュートなどで７点差まで縮めるが、海神も最後までディフェンスのプレッシャーを落とさずに追随を許さない。そのまま試合は終了。海神が４７年ぶり４回目の優勝を決めた。

一方、女子のベスト４は、女王奪還をねらう昭和学院中学校（市川・浦安）、翔凛中学校、激戦区市川・浦安地区第２位の市川市立第六中学校（市川・浦安）と、同じく激戦区船橋を制している船橋市立七林中学校（船橋）が顔をそろえた。準決勝Ａコートの昭和学院ＶＳ翔凛は、翔凛の選手たちの最後まで諦めない粘り強いディフェンスが光るも、昭和学院が制し決勝進出。Ｂコートの市川六ＶＳ七林は、接戦の末、七林が決勝に進出した。

女子決勝戦、前半、昭和学院はオールコート、七林はハーフコートマンツーマンで試合がスタート。昭和学院は＃４山本、＃５新谷のスクリーンを交えた１対1、対する七林は＃４鈴木の１対１、アウトサイドシュートで得点を重ねる。互いに緊張感のある、一進一退の攻防が続く。後半に入っても両者一歩も引かず、七林は、昭和学院のインサイド、１対１に対し、オールコートマンツーマン、ダブルチームで対抗。スクリーンから２対２、速攻などで最後まで互いに点数を取り合う展開。最後は、巧みな１対１で果敢に攻め切った昭和学院がリードを守り試合終了。５年ぶり22回目の優勝を決めた。

今大会においても、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けて、様々な対策を徹底して実施された。丁寧に対策を行ってくださった大会関係者の尽力があり、大会を無事に終えることができた。今年度、本大会の開催により、部活動で努力を重ねてきた子どもたちの活躍の場を保障することができたことは、非常に価値のあることであろう。

末筆ながら、感染症対策に追われる非常に難しい大会の運営に、献身的に携わってくださった安房支部及び、木更津・袖ケ浦、君津、富津支部の先生方、ＴＯや会場準備など試合がなくとも運営に尽力いただいた支部外の先生方、千葉県バスケットボール関係者の皆様、感染症予防にご理解、ご協力くださった学校関係者、保護者の皆様の支えにより大会を無事終えられたことに、心より感謝申し上げたい。